

「マレガ・プロジェクト」シンポジウムinバチカン

キリシタンの 跡をたどる

バチカン図書館所蔵
マレガ収集文書の発見と
国際交流

主催：バチカン図書館・人間文化研究機構(国文学研究資料館)
共催：大分県教育委員会・東京大学史料編纂所

バチカン図書館で17世紀以降の日本のキリシタン禁制に関する記録が大量に発見されました。共同調査を通じて明らかになってきた事実を紹介するとともに、この記録群が有する価値と可能性について、学術・文化の交流などの視点から、日本とイタリア・欧州の市民・研究者とともに検討します。

2015年9月12日(土)

午後2時～6時

Sala San Pio X

Via della Conciliazione 5, Roma

(Via dell'Ospedale, 1 よりお入りください)

大橋幸泰 (早稲田大学)

16-19世紀におけるキリシタンの受容・禁制・潜伏

佐藤晃洋 (大分県立先哲史料館)

近世日本豊後のキリシタン禁制と民衆統制

シルヴィオ・ヴィータ (京都外国語大学)

—宣教師の半生を探る—マレガ文書群の成立とその背景にあるもの—

アンヘラ・ヌーニェス = ガイタン (バチカン図書館)

マレガ神父収集文書の整理と保存—バチカン図書館と日本の共同調査と交流—

使用言語：日本語(大橋・佐藤)

イタリア語(ヴィータ・ヌーニェス = ガイタン)

定員：先着 300名。

事前の申込は不要です。直接会場へお越し下さい。

問合せ先：国文学研究資料館 ohtomo_team@yahoo.co.jp

人間文化研究機構日本関連在外資料調査研究事業「バチカン図書館所蔵マレガ・マレガ収集文書の保存・公開に関する調査研究」班 (代表 大友一雄)



協力：サレジオ大学・ローマ日本文化会館(国際交流基金)・イタリア東方学研究所

後援：在バチカン日本大使館・ローマ大学・ヴェネツィア大学・ナポリ東洋大学・伊日研究会